

令和7年度

大崎麦作情報 総括号

令和7年10月8日発行

宮城県大崎農業改良普及センター

TEL:0229-91-0726 FAX:0229-23-0910

<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

～令和7年度麦類の特徴(シラネコムギ)～

- 生育前半は茎数が著しく増加したが、後半は減少に転じ適正な数に調整された。
- 穂数はやや少なかったが千粒重・容積重が大きく、収量は平年を大きく上回った。

1 気象経過

(1) 越冬前 (10月～12月)

10月下旬の播種時期は、高温・多照・少雨で、11月中は高温傾向でした。12月下旬は低温となり、降雪がありました。

(2) 冬期間 (1月～2月)

1月上旬に降雪あり根雪となったものの、下旬の高温により雪は一旦溶けました。

1月末から2月中旬まで降雪があり根雪となりましたが、2月中には溶けました。

(3) 越冬後 (3月～6月)

3月は上旬に降雪、下旬に降雨があったものの全般に高温・多照でした。4月以降は高温と多雨が周期的に繰り返し、6月中旬以降は高温・多照・少雨となりました。

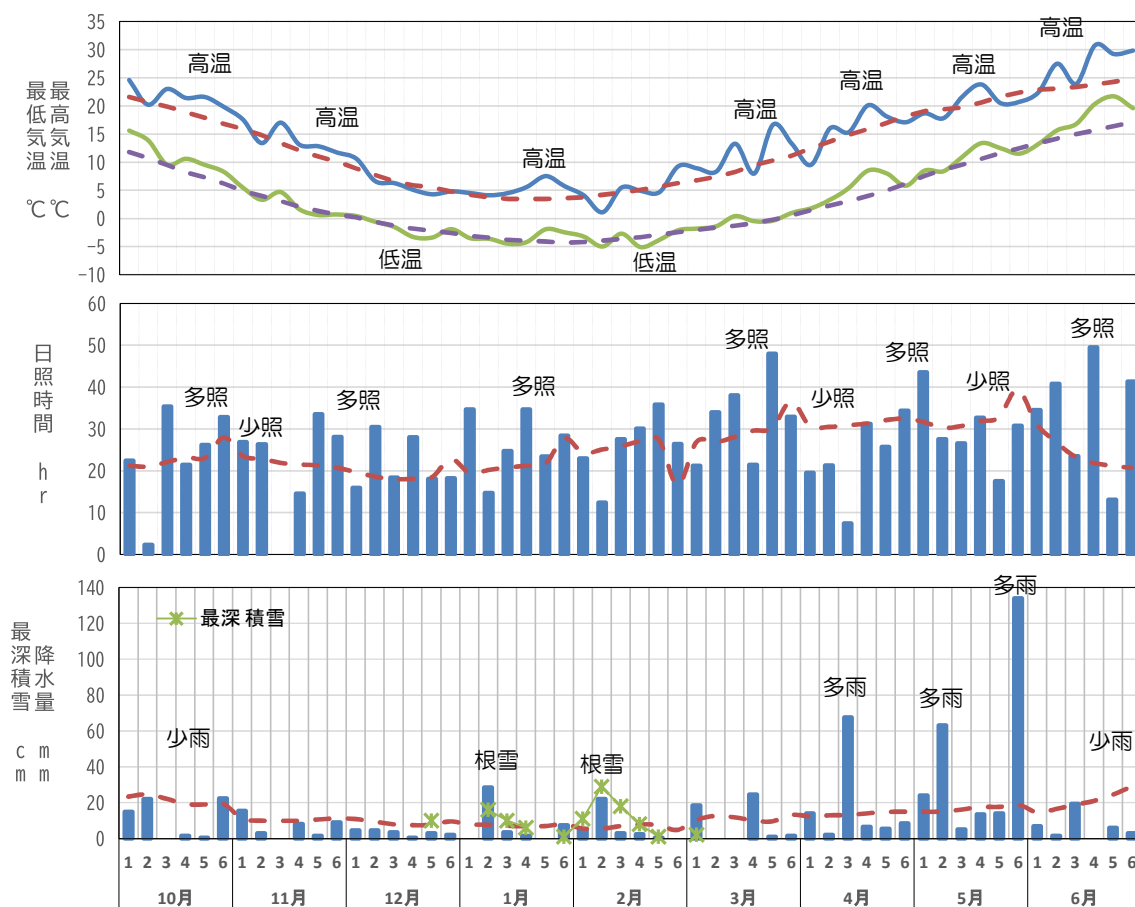


図1 気象経過 (古川アメダス) ※実線又は棒グラフが本年度、点線は平年値

2 生育概況

(1) 越冬前～冬期間（10月～2月）

- ・シラネコムギの播種日は平年（直近5ヶ年平均）より4日早い10月19日で、出芽はムラが少なく、良好でした。年内の高温・多照傾向により初期生育が旺盛で、2月10日時点では、前年同様に茎数が平年を大きく上回りましたが、1月と2月の根雪のためか、草丈は平年よりやや低く推移しました。

(2) 越冬後（3月～6月）

- ・根雪期間と低温の影響を受け、3月20日の調査では茎数は減少に転じ、最終的な穂数は平年よりやや少なくなりました。幼穂長は平年よりも、2月10日まで長かったものの、4月10日では短くなりました。
- ・生育ステージは、平年と比較し、幼穂形成期は3日早かったものの、減数分裂期は同日、出穂期は3日・成熟期は1日早く、前年より4～6日遅くなりました。
- ・成熟期の稈長は平年より長く、穂長は平年並、千粒重・容積重・子実重は平年よりも大きくなりました。
- ・一方で、開花・出穂期の5月上旬に降雨が多く高温であったため、管内の排水性の悪いほ場では赤カビ病による立枯症状が多く発生しました。
- ・子実用トウモロコシ後に作付けしたシラネコムギは、水稻乾田直播後に比べ、穂数は少ないものの千粒重・容積重は大きく、子実重は6%ほど多くなりました。

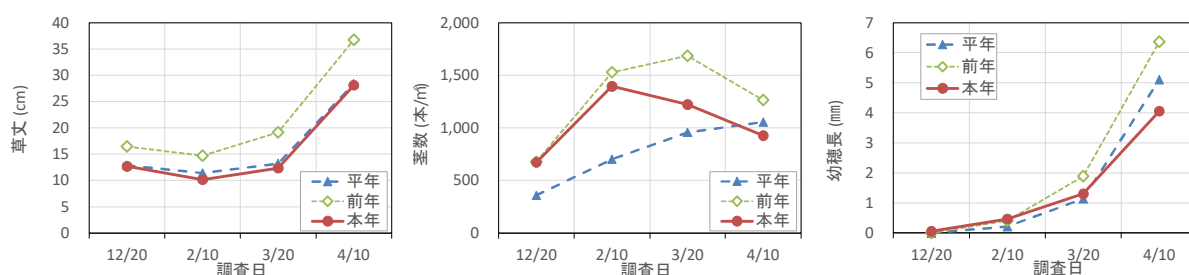


図2 草丈（左） 茎数（中） 幼穂長（右）の推移

表1 生育ステージ

品種（地区）	区分	播種日	幼穂形成始期	減数分裂期	出穂期	成熟期
シラネコムギ （古川1）	本年（水稻後）	10/19	3/17	4/27	5/3	6/19
	前年差	1日早い	2日遅い	6日遅い	4日遅い	5日遅い
	平年差	5日早い	3日早い	同日	3日早い	1日早い
シラネコムギ （古川2）	水稻乾直後	10/22	3/16	4/26	5/03	6/17
	子実用とうもろこし後	10/22	3/17	4/26	5/03	6/17

表2 成熟期・収量調査結果

品種（地区）	区分	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m²)	千粒重 (g/千粒)	容積重 (g/L)	子実重 (g/m²)
シラネコムギ （古川1）	本年（水稻後）	93.6	8.0	619	42.6	855	655
	前年比	120%	104%	92%	147%	110%	219%
	平年比	120%	101%	95%	124%	106%	130%
シラネコムギ （古川2）	水稻乾直後	93.0	7.6	531	35.9	827	725
	子実用とうもろこし後	89.7	7.5	478	37.0	833	769

※1 平年差・比は、過去5か年（令和2～6年産）の平均値との比較、篩目2.0mmで調整

※2 古川1は基肥に緩効性肥料（N:P:K=12:9:4、2kg/10a）、5月2日尿素（N=2.8kg/10a）を追肥。
古川2は基肥に化成肥料（N:P:K=14%:14%:14%）を水稻乾直後60kg/10a、子実とうもろこし後40kg/10a、両ほ場とも4月4日と4月26日に尿素（各時期N=2.8kg/10aずつ）を追肥。

次作に向けた技術対策は令和8年産大崎麦作情報第1号を参照してください。